

第三者評価結果

事業所名：かしわ台あおぞら保育園

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>全体的な計画は、園長を中心にして保育士全員で作成している。理念や基本方針をはじめ、保育所の社会的責任や地域の実態に対応した事業、延長保育などを明記している。保育の特徴として、0、1、2歳児は「かわいがり保育」、3、4、5歳児は「寄り添い保育」を掲げている。養護と教育について、年齢別の目標を立てている。園の特色として、テニス教室や英語教室、茶道教室、リトミックなどを行い、野菜栽培を通して食育に力を入れている。全体的な計画をもとに、それぞれのクラスの年間指導計画や月間指導計画、週間指導計画を作成して、実際の保育に活かしている。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>保育室は、定期的に換気している。汚れた時にはその都度、保育士が保育室を掃除しているが、夕方には保育室の床や壁、マットなどを掃除し、すべてを消毒している。特に0、1歳児の保育室は、ハイハイをする子どもがいるので、常に床をきれいにしている。食事は、密にならないよう席を離して、パーテーションを使用している。3歳以上児は、食後に歯磨き、うがいを洗面所で行っている。午睡は、0、1、2歳児は布団を使用し、3歳以上の子どもはコット（簡易式ベッド）を使用している。災害の発生に備え、子どもたちはパジャマは使用していない。園庭は広くはないが、近くに自然豊かな公園が多くあり、子どもたちは公園に行き、自然との触れ合いを楽しんでいる。保育士は子どもたちに寄り添い、子どもたちが主体的に生活できるよう、やりたいことをサポートしていけるようにしている。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>子どもたちの午睡の時間には、保育士間で、「こんなことがあったが、この子どもにはどのようなサポートをしたらよいか」など、話し合いを行っている。午睡の間、トイレに起きなかった子どもには、ほめながらトイレに誘導し、自信がつくようにしている。手づかみで給食を食べていた子どもがスプーンを持てたり、スプーンを握って持っていた子どもが3本持ちができるようになったりしたときには、上手にできたことをほめ、保育士も喜びを感じながら関わっている。高いところに登りたい子どもには、職員手作りの積み木に登るなど、子どもの状況に応じた保育を行っている。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>登園時には、自分の水筒や着替え、カバンを自分のロッカーに入れるなど、子どもたちが進んでできるようにしている。年少児は絵やマークで自分の場所を覚えているが、文字や数字に関心を持ち始める年中・年長児は、文字や数字で自分の場所を確認している。歌の歌詞を大きな文字で書いて貼りだし、子どもたちが興味を持てるようにしている。乳児には、楽しく食べる体験を大事にしている。手づかみで楽しんで食べた後、スプーンを持って食べることを覚えるよう関わっている。年少児はトイレトレーニングの際、うまくできた時には「頑張りシール」がもらえるなど、楽しみながら生活習慣が身に付くようにしている。</p>	

<p>A-1-(2)-④ 【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
---	---

<コメント>

これからはもっと、子どもたちの主体的な活動を育むよう計画している。主体的な保育について、会議の場で話し合いを行っている。保育士が「〇〇をやりましょう」ではなく、子どもたちから「〇〇をやりたい」という気持ちを大切に、子どもたちが考えて活動することが大事との話が出ている。年長児が散歩に行くときには、子どもたちから「図鑑を持っていこう」と公園に行き、虫を捕まえては図鑑で生態を調べたりしている。鬼ごっこなど、子どもたちが集団での遊びを考え、自分たちでルールを決めて楽しんでいる。また製作など、自分たちでテーマを決めて、魚釣りゲームの魚を作ったり、積み木を使って大きなものを作り上げて遊んでいる。

<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

0歳児は9人おり、初期1名、中期4名、後期4名と、離乳食は個別に対応している。毎月、保護者や園長、担任、栄養士で、離乳食の進み具合や新しい食材の使用などについて、話し合いを行っている。家で使用した食材を「離乳食一覧表」に記入し、園の献立に取り入れている。またSIDS(乳幼児突然死症候群)対策として、うつぶせ寝を避け、5分おきに呼吸のチェックを行い、記録している。SIDSについては、保護者にも理解してもらうため、懇談会などで話をしている。おむつは保育室をサークルで囲い、その中で交換している。0歳児は「かわいがり保育」を目標にして、抱っこをし、十分に愛着関係ができるよう話しかけながら保育している。

<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

1、2歳児は、SIDS対策として、うつぶせ寝を避け、10分おきに呼吸をチェックして記録に残している。保育士との会話を楽しみながら、基本的な生活習慣が身に付くよう働きかけている。また、感覚遊びとして、寒天や小麦粉、スライムなどを手に取り、こねて遊んで楽しんでいる。ブロックも、柔らかいものや固い素材のものを準備している。コーナー遊びを増やし、電車遊びを発展させて、テープでレールを作って、その上を走らせたりしている。子ども同士のおもちゃの取り合いは、保育士が中に入り、子どもの気持ちを代弁しながら関わっている。

<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

子ども一人ひとりの発達の違いも大きい。どうしようか迷っている子どもに対して、どこまで手を貸していいのかわからないなど、月1回開催する幼児カリキュラム会議で話し合い、保育士が共通した関わりが持てるようにしている。友だちと関わる楽しさを体感してほしいことから、相手の気持ちを理解できるよう保育している。テニス教室や英語で遊ぼうなど、集団生活の中で友だちと協力し、自己を発揮できたり、興味関心を深められるよう、環境作りに配慮している。子ども同士で助け合ったり、協力し合うなど、子ども自身が考えて行動できる機会を多く作っている。

<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

保育中に大声を出して落ち着かなかったり、少しの刺激で大泣きして泣き止まないなど、気になる子どもが数人いる。療育センターから専門家が月1回来園して、対応方法などアドバイスを受けている。その後の対応結果についてもアドバイスを受け、保護者にも内容を伝えている。また、対応方法については、保育士間で共有している。保護者には、その日の様子や対応方法を具体的に話し、連絡帳だけでなく口頭でも伝え、連絡を密にとっている。

【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子ども在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
---	---

<コメント>

全体的な保育の計画やパンフレットに記載している通り、地域の期待に応え、朝7時から夕方18時30分までの長時間保育を行っている。延長時間の保育は、遅番の保育士が担当している。担任からの引継ぎは、特に記録では引継ぎず、口頭で引継ぎ、保護者への今日一日の連絡も口頭で行っている。18時に、おせんべいやゼリー、アイスクリームなどの軽食を提供している。

【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b
--	---

<コメント>

就学に向い、園の中での当番を決めている。配膳当番やごみ捨て当番、台ふきなどの洗濯物集め、今日の食材のボード作成など、子どもたちが責任を持って行っている。日常の中でも、文字や数字などに興味を持てるよう関わっている。年長児は12月後半には午睡の時間がなくなり、乳児クラスに行き、寝かしつけの手伝いを行っている。小さい子どもの面倒を見るなど、お兄さんお姉さんらしくなっている。小学校からは交流会の案内が来て、自分の進む学校に招待され、学校の案内をしてもらい、1年生がゲームや出し物を見せてくれて、楽しんでいる。また、市主催の幼保小連絡協議会に、年長児の担任が参加し、連携している。卒園が近くなると、就学への期待感が膨らんでくるよう働きかけをしている。

A-1-(3) 健康管理 【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	第三者評価結果 a
---	--------------

<コメント>

子どもの健康管理に関しては、入園のしおりで、保護者へ対応方法を説明している。「感染症マニュアル」や「ノロウイルスマニュアル」、「コロナ対策マニュアル」を整え、子どもの健康管理に関して、職員に周知徹底している。また、子ども一人ひとりの「健康台帳」に、子どもの健康状態を記載している。毎月の体重測定や成長の様子、健康診断の結果、SIDSチェックの結果などを記録に残している。現在は、コロナ対策として毎日の体温測定を行っている。また、栄養士がカウプ指数（肥満などを表す指数）を出し、保護者に伝えている。

【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a
--	---

<コメント>

年2回、嘱託医が来園し、子どもたちの健康診断を行っている。健康診断の結果は、台帳に記載している。保護者には、連絡帳などで結果を報告している。年1回、嘱託医が来園して歯科検診も行っている。検診の結果は、保護者に歯科検診結果表を渡し、治療が必要な子どもは歯科への受診を促している。

【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
---	---

<コメント>

「アレルギー対応マニュアル」を整えている。アレルギーがある子どもの保護者とは、園長や栄養士、担任が月1回集まり、状況を確認し合っている。卵や牛乳、ゴマのアレルゲンを持つ子どもがおり、除去食として代替のものは〇〇ですと、保護者あてに献立表で知らせている。また、医師の指示のもと、卵を何分の1か食べて様子を見るなど、保護者と連絡を密にして対応している。除去食の提供は、トレーや食器の色を他の子どもと変え、子どもの名前や何の除去食かを明記している。また、専用のテーブルで食べてもらっている。配膳時には栄養士と担任のチェック、保育室では担任と他の保育士とでダブルチェックを行い、誤食のないよう配慮している。職員がアレルギー対応の外部研修に参加しているが、今年度はコロナ禍で参加できていない。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
<p><コメント></p> <p>園内の畑に、ミニトマトやキュウリ、ナス、ジャガイモなどを植え、子どもたちが水やりや草取りをして育てている。収穫した野菜は、厨房で調理し、給食に提供している。「今日の味噌汁は年長さんが作ったナスが入っています」と放送で知らせ、子どもたちは年長児が育てたナスを確認しながら食べている。また旬の食材を提供し、今日何が出るかクラスで話し合っ、楽しみながら食べている。秋にはサンマ1匹が給食で出るが、その前にサンマの模型を作り、骨の取り方を皆で練習してから食べている。子どもたちは熱中して練習し、サンマを上手に食べている。年長児は三大栄養素の色分けのボードに、今日の食材を栄養士や園長に確認しながら区分けしている。給食のサンプルを置き、食材の区分け表を掲示している。</p>	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<p><コメント></p> <p>毎月の職員会議で、子どもたちがよく食べた献立を確認したり、評判の良くなかった献立の味付けの変更などを、栄養士と一緒に話し合い、次の献立に反映している。食育に力を入れ、お米や野菜、肉類など、食材はすべて国産品を使用し、近くの障害者施設で飼育している鳥骨鶏（うこっけい）の新鮮な卵を使用している。葉物は3回水洗いし、一人が切り、他の人がゆでるなど、必ず複数で行い、間違いのないよう配慮している。子どもたちは、トウモロコシの皮むきや豆のさやむきなどを体験している。そら豆のさやむきでは、「ふかふか布団のベッドに寝ている」と大喜びしたり、野菜当てゲームをして、楽しくおいしく食べる工夫をしている。毎年、園外の畑で、サツマイモを栽培し、サツマイモ掘りや、掘りたてのサツマイモを給食やおやつで楽しんでいる。</p>	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>乳児は連絡帳にて、毎日の園や家庭の子どもの様子を報告し合っている。幼児クラスは、退園時に廊下に伝言ボードを置き、今日の子どもの様子を知らせている。ボードには写真も掲示している。毎日の送り迎えの時の保護者とのコミュニケーションを大事にして、細かな情報交換を行っている。毎年、6月と年度末の2回、保育参観を行っている。参観の後には懇談会を行い、保護者と意見交換している。また年度末には、生活発表会で子どもたちの成長の様子を見てもらっている。保護者から相談の希望がある時は、園長や担任が丁寧に話を聞き、相談に対応している。相談内容は、記録に残している。</p>	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>保護者から、連絡帳や口頭で、子育ての不安や悩みなどが出ることがある。ゆっくりと話を聴く時間を作り、多目的室で対応している。保護者からは、「いやいやが多くて困っている」、「自分の思うようにならないとかみつく」などの相談があり、その時期の対応についてアドバイスしている。特に朝夕の送り迎えの時には、保護者の様子を確認しながら、コミュニケーションをできるだけ多くとるよう心がけている。立ち話でも、こんな時困っているなどの悩みを聴くことがある。こんな対応をしてみてもと伝え、保護者が安心して子育てができるよう取り組んでいる。地域の子育て家族からは、公園への散歩時に相談を受けることがある。</p>	

【A19】 A-2-(2)-②
家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。

b

<コメント>

朝の受け入れの時の視診で、外傷の有無、ネグレクトなどを確認している。下着の交換をしていない、お風呂に長く入っていないのではないかとネグレクトの疑いがある子どもには、それとなく園長から保護者に話をしている。現在、家庭での権利侵害の疑いのある子どもはいない。保育士が虐待防止の研修を受けて、意識を高めている。「リスクアセスメントシート」を確認しながら、権利侵害の早期発見や予防に努めている。

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

第三者評価結果

A-3-(1)-①
【A20】 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

a

<コメント>

保育士全員が、自己評価に取り組んでいる。年度初めに、今年の自分の目標を立て、運動会后、生活発表会后、年度末の3回、振り返りを行い、園長が状況を確認している。また、毎日の保育日誌のエピソード記録から、子どもの行動の内容や意味、子どもの興味や関心を読み取り、保育の振り返りや見直しを行っている。職員が積極的に研修会に参加し、自己啓発に努めている。今年度はコロナ禍のため、運動会を中止している。保護者に子どもの成長を見てもらうため、各クラスでビデオを作成して、保護者に提供するなど、新しい取り組みを進めているところである。